

地域ケア会議を基点とした 「笑顔れんらく帳」の作成と活用



富田林市では

M みんな
E 笑顔と
E 笑顔で
T 手をつなごう

『MEET★富田林』を
スローガンに認知症普及啓発
に取り組んでいます。



大阪府 富田林市健康推進部高齢介護課
富田林市第1圏域地域包括支援センター
大北 俊治

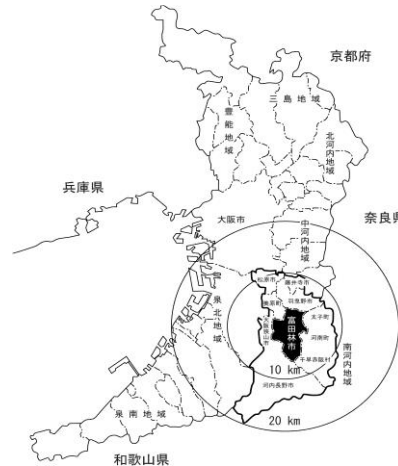
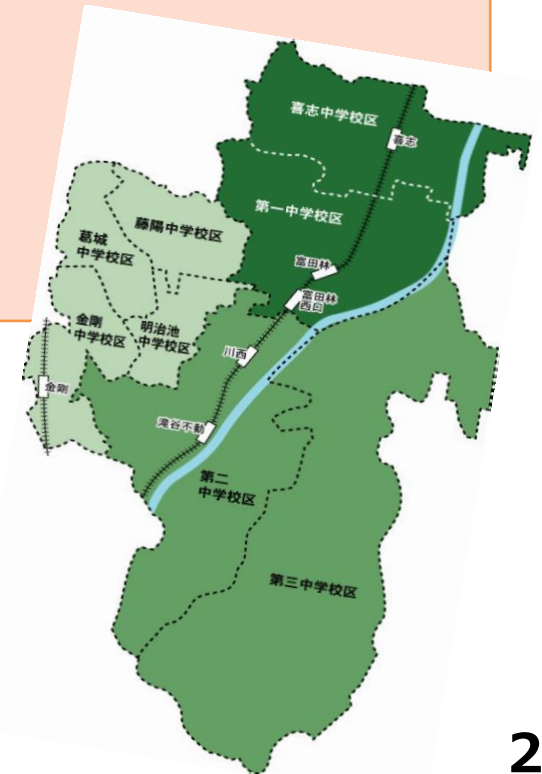
自治体基礎情報

人口	114,646人	65歳以上人口	31,570人
高齢化率	27.5%	第6期介護保険費	5,995円（基準月額）
要介護認定者数	6,569人	要介護認定率	20.8%
日常生活圏域数	3ヶ所	包括数	直営：1 委託：2
認知症地域支援推進員数：1名（うち行政（直営）：1名）			※平成28年3月末現在

地域の特徴：

大阪府の東南部に位置する自然と歴史に恵まれたまち。北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、特に「[富田林寺内町](#)」には歴史的に貴重な町並みが残されている。一方、南部は、雄大な金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と田園風景が広がる。

また、西部丘陵地域は、計画的に開発の進んだ環境水準の高いニュータウンとなっている[金剛ニュータウン](#)がある。



第6期介護保険事業計画における 認知症施策の全体像

介護保険事業計画

【基本目標(第6期)】

- 1、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み
- 2、認知症高齢者支援策の充実
- 3、安全、安心、快適に暮らせる住まいとまちづくり
- 4、介護予防と健康づくりの推進
- 5、介護サービスの充実強化
- 6、福祉・介護サービス基盤の充実

地域包括支援センター 事業計画

- 介護予防ケアマネジメント業務
- 総合相談支援業務
- 権利擁護業務
- 包括的・継続的マネジメント支援業務

認知症施策の推進

- 「医療」「介護」「地域」それぞれの分野の事業推進、連携支援

「富田林市認知症対策5ヶ年計画」H22～

「第2次 富田林市認知症対策5ヶ年計画」H25～H29

「認知症施策推進5か年計画」(オレンジプラン)H25～H29

第5期 富田林市介護保険事業計画
H24～H26

第6期 富田林市介護保険事業計画
H27～H29

富田林市における認知症関係施策の経緯

平成22年度	4月 富田林市認知症対策5ヶ年計画策定 南河内圏域市町村徘徊高齢者SOSネットワーク事業開始 (10市町村による広域連携) 7月 大阪府認知症地域支援体制構築等推進事業受託 11月 とんだばやし認知症市民フォーラムを開催(※以降、毎年11月に開催) 1月 かかりつけ医認知症対応力向上研修を開催(※以降、毎年1月に開催)
平成23年度	2月 第6回 認知症地域支援推進員研修修了 3月 「笑顔れんらく帳」の作成
平成24年度	8月 市町村認知症施策総合推進事業受託 2月 「認知症地域支援全国合同セミナー」で取り組み発表 3月 認知症サポーター100万人キャラバン活動においてグランプリ受賞 「MEET★富田林 推進員」を養成
平成25年度	7月 第2次 富田林市認知症対策5ヵ年計画 (MEET★富田林 推進プラン)策定 10月 市町村認知症施策総合推進事業受託 三師会と地域包括支援ネットワーク推進事業の委託契約を締結 (地域ケア会議、認知症初期集中支援チームの体制整備)
平成26年度	1月 第4回 認知症地域支援推進員フォローアップ研修で事例報告
平成27年度	9・10月 認知症地域支援推進員研修(第5回・第6回)で事例報告 1月 自立支援リーダー養成研修会を開催



今回ご紹介する事業・取組み

笑顔れんらく帳

健康管理のために...



家族も確認、安心...



《ビニールカバー》

笑顔れんらく帳

この手帳は健康増進や医療と介護の連携を図るため、健康状態や連絡先などを記載する大切な手帳です。

診察券と一緒に
お出しください。



富田林市イメージキャラクター とっぴー

お名前

製作

富田林市
富田林医師会 富田林歯科医師会 富田林薬剤師会
ほんわかセンター(富田林市地域包括支援センター)

医療と介護の連携に...



医師

ケアマネジャー

緊急時も慌てず、
手帳を見せましょう...



医療間の連携に...



歯科医

医師

薬剤師

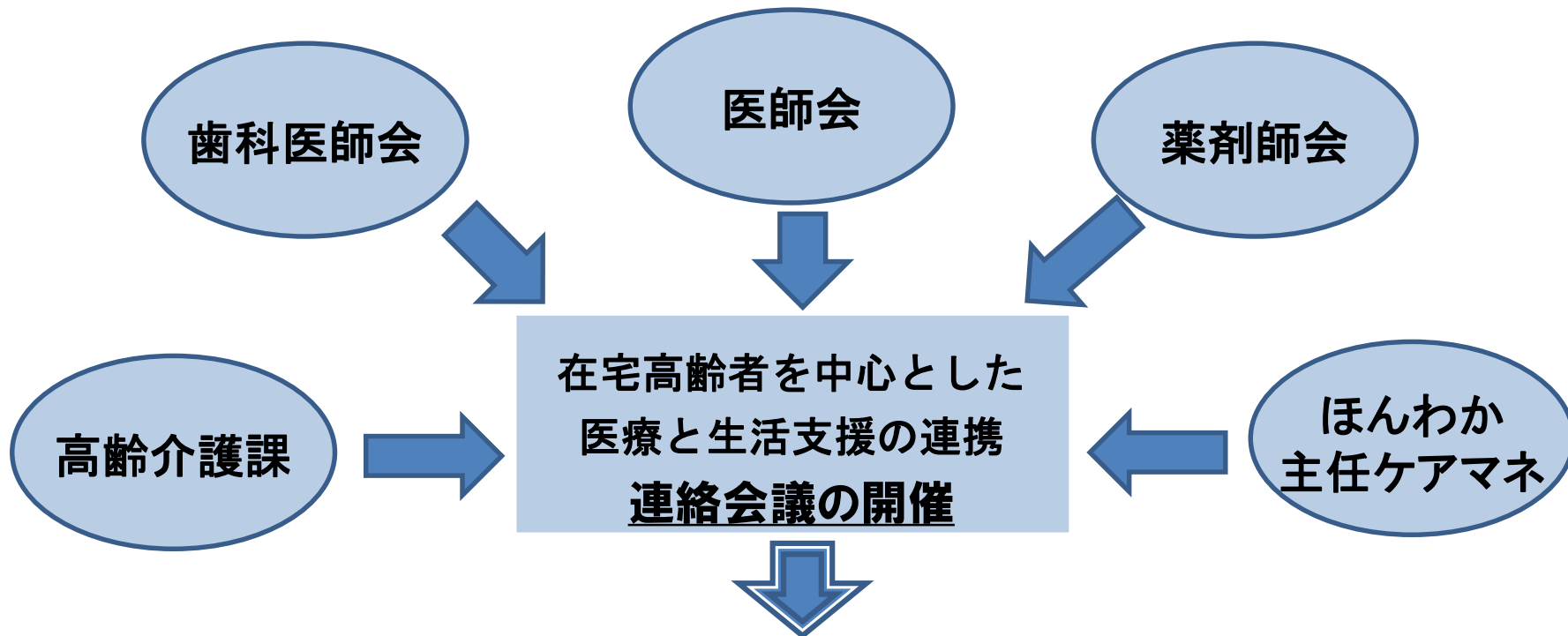


富田林市包括ケア会議

三師会・ほんわかセンター連絡会議(平成22年度～)

※ほんわかセンターは、

富田林市地域包括支援センターの愛称です。



【環境づくり】

1. 連携体制の強化

- ①医療(医師・歯科医師・薬剤師)と介護(包括・ケアマネ)の連携
- ②病院と包括、ケアマネの連携
- ③病診連携 診診連携

2. ガイドライン・マニュアル

①連携ツールの作成

- ②入退院、在宅療養・生活支援システムの確立

【人材づくり】

1. 医療・福祉従事者対象の研修事業

- ①専門的な知識の向上
- ②多職種協働・連携のための援助観の形成
- ③他職種の専門性の相互理解
- ④対人援助技術の向上

2. 市民対象の講座・フォーラム

- ①健康管理や介護予防の理解促進
- ②地域での支え合い・助け合いの担い手づくり

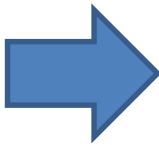
「笑顔れんらく帳」作成に取り組むきっかけ、課題意識

＜課題・問題提議＞ ※三師会・ほんわかセンター連絡会議の意見を抜粋

- 飲み忘れや重複処方等の高齢者の服薬管理に関する問題が多い。
- “お薬手帳”が十分に活用されていない。
- 患者に担当のケアマネジャーを聞いてもすぐに出てこないため、連絡できない。
- 患者から「血液凝固防止剤を飲んでいる」と申し出があるが、中には抜歯し、出血が止まらないケースもある。処方箋を持ってくる人もいるが、大半は口頭での情報しかない。

＜手帳活用のイメージ＞ ※三師会・ほんわかセンター連絡会議の意見を抜粋

- 「介護タクシーを呼んでほしい。」と希望もある。それ以外にもケアマネジャーに確認したいこともあるため、情報共有のツールの必要性を感じる。
- 医療と介護の連携はとても重要。さまざまな情報が網羅され、これ一冊あれば、情報共有や連携は“すべてOK”となれば素晴らしい。
- 個人情報あまり変化がないので、患者と医療・介護従事者等の支援者間で情報交換のために記載できるスペースもあれば良い。
- 受付で保険証や診察券を必ず手帳カバーにはさんで返却すればかなり活用が進むのではないか。



富田林医師会・富田林歯科医師会・富田林薬剤師会・ 富田林市が協働して作成することが決定！！

<目的>

- 高齢者自身の健康状態、医療・介護サービスの利用状況、連絡先など
いろいろな情報を記録し、健康増進や介護予防につなげる。
- 医療や介護、地域の関係機関の連携ツールとして活用する。

<配布対象者及び配布窓口>

- 配布対象は市内在住の65歳以上の高齢者
- 市高齢介護課、ほんわかセンター、医師会・歯科医師会・薬剤師会の医療機関

<手帳の名称> ⇒市広報誌で市民に名称を公募。

- 介護をされている市民が応募した「**笑顔れんらく帳**」に決定。

＝応募者のメッセージ＝

「笑顔を見せてくれるときが子どもとして、家族として幸せを感じます。

笑顔で毎日を送れることをすべての高齢者が目指す目標になってほしい。」

<作成部数>

- 笑顔れんらく帳 28,000部
- ビニールカバー 20,000部

笑顔れんらく帳の配布と取り組みの経過

<笑顔れんらく帳の配布を開始>

- 4月 ケアマネジャーに担当利用者への配布や活用の協力依頼。
- 5月 「富田林市広報誌」に記事を掲載し、市民へ周知する。
- 6月 三師会に戸別訪問（180機関）し、配布や活用の協力依頼。
- 7月 要介護認定者を除く65歳以上の高齢者（約23,000人）に「はつらつ度チェック票」を送付。（※二次予防対象者把握事業）その際に笑顔れんらく帳のチラシ（引換券付き）を同封し広報。
- 12月 三師会に戸別訪問（178機関）し、配布や活用状況の確認。

24年度

25年度

- 10月 「南河内認知症連携会議」（大阪狭山市・河内長野市・富田林市）を発足。笑顔れんらく帳を参考にした連携ツールの作成を他市で検討。

26年度

- 6月 ケアマネジャーに活用状況についてアンケートを実施。
- 10月 三師会に戸別訪問（173機関）し、配布や活用状況の確認。

27年度

- 5月～ 医療・介護従事者、家族や地域の関係者間で活用し成果を収集し、効果検証を開始する。（15事例）

<配布実績>

24年度	25年度	26年度	27年度	合計
5,879部	1,866部	2,045部	780部	10,570部

「笑顔れんらく帳」の作成・活用における工夫 ～推進員として心がけたこと～

- 三師会・ほんわかセンター連絡会議等を基点として、医師・歯科医・薬剤師・ケアマネジャーから課題を抽出し、地域課題を共有することで、関係機関が共通の目的を持ち、同じ方向性で取り組んでいくためのきっかけづくりを行った。
- 医師会・歯科医師会・薬剤師会と協働し、それぞれの専門的な視点から必要な情報や内容、配布方法等について協議しながら政策形成につなげた。
- 医療・介護・地域の各領域の認知症施策は、関係機関とのネットワークづくりにもつながり、違った面での相乗効果も期待できるもので、地域包括支援センターの重要な業務になり、地域包括ケアシステムの推進にもつながる。

今後の取組み(予定)やさらに強化したい点

- 1、介護予防・日常生活支援総合事業の実施にあたり、高齢者のセルフマネジメントを推進し、介護予防を継続するためのツールとして、笑顔れんらく帳を有効に活用する。

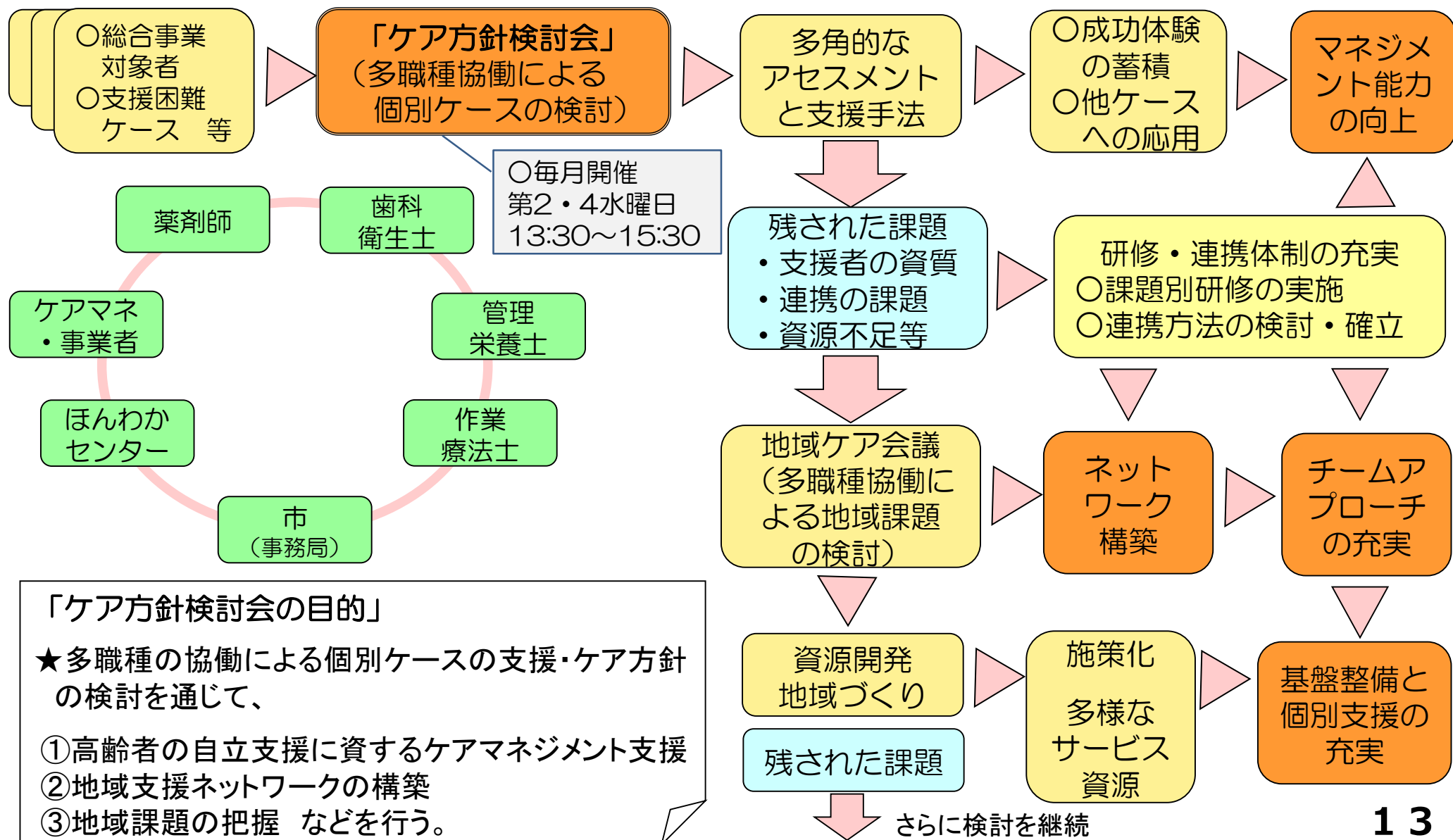
わたしの介護予防計画		計画作成日	年	月	日
わたしの生活の目標	目標達成するためにわたしが取り組むこと				



自己評価	評価日	年	月	日	今後の取組み
実行度	<input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 半分できた <input type="checkbox"/> できていない				
達成度	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成				
実行度	<input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 半分できた <input type="checkbox"/> できていない				
達成度	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成				
実行度	<input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 半分できた <input type="checkbox"/> できていない				
達成度	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成				

2、多職種が参画する「富田林市ケア方針検討会」(地域ケア個別会議)

地域包括支援センターにおける他の業務と関連づけることにより有効に機能する。



「ケア方針検討会の目的」

★多職種の協働による個別ケースの支援・ケア方針の検討を通じて、

- ①高齢者の自立支援に資するケアマネジメント支援
- ②地域支援ネットワークの構築
- ③地域課題の把握 などを行う。

全国の推進員さんへのメッセージ

市町村や地域包括支援センター、医療機関など、所属機関はさまざまですが、所属機関ごとに、それぞれの立場での強みや弱みがあると思います。

少しのきっかけがあれば、築いてこられたネットワークがよりの層広がり、取り組みもスムーズに進むこともあると思います。

すぐに結果も見えないし、難しいことも多くありますが、いつか、きっと、成果が現れると思います。

富田林市でも、当然多くの課題がありますが、これからも頑張っていきます。

